

計画の名称	北部九州地域への来訪者の滞在促進戦略（広域的観光活性化）（重点）													
計画の期間	令和02年度 ～ 令和06年度（5年間）										重点配分対象の該当	○		
交付対象	福岡県													
計画の目標	H29、30年と2年連続の豪雨災害が生じ、観光産業は打撃を受け、日本人延べ宿泊者数が減少しており、早期復興は喫緊の課題である。一方H24年以降、海外からの観光客が急激な増加の一途をたどっている。また、福岡県、大分県には高速道路の周遊ルートがあり、東九州道は今年度4車線化の一部事業化や優先整備区間に選定され、周遊ルートの更なる強化が図られているところである。 この周遊ルートを中心とした高速道路網や九州新幹線を活用し、ICや駅と観光地のアクセス向上はもとより、観光地間の相互アクセスを強化することで、移動の効率性や速達性を高める。加えて、官民一体となった九州観光戦略委員会の一員として広域的な観光活性化に向けた九州観光戦略などの関連施策と連携し、全国各地のみならず海外からも北部九州地域への来訪者の滞在促進を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		2,373	A	2,373	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		2369	2744	2961
1	【福岡県・大分県 共通目標】延べ宿泊者数2369万人（H30）から2961万人（R6）に増加（592万人（25.0％）の増加）			
	【福岡県・大分県 共通目標】 (延べ宿泊者数の増加割合)＝(評価時点の年間延べ宿泊者数－H30の年間延べ宿泊者数)／(H30の年間延べ宿泊者数)	2369万人	2744万人	2961万人
2	【福岡県内 単独目標】延べ宿泊者数1592万人（H30）から2160万人（R6）に増加（568万人（35.7％）の増加）			
	【福岡県内 単独目標】 (延べ宿泊者数の増加割合)＝(評価時点の年間延べ宿泊者数－H30の年間延べ宿泊者数)／(H30の年間延べ宿泊者数)	1592万人	1951万人	2160万人
3	【福岡県 重点目標】福岡地域における延べ宿泊者数670万人（H30）から790万人（R6）に増加（120万人（17.9％）の増加）			
	【福岡県 重点目標】 (延べ宿泊者数の増加割合)＝(評価時点の年間延べ宿泊者数－H30の年間延べ宿泊者数)／(H30の年間延べ宿泊者数)	670万人	750万人	790万人
4	【福岡県 重点目標】柳川地域における延べ宿泊者数8.1万人（H30）から9.3万人（R6）に増加（1.2万人（14.8％）の増加）			
	【福岡県 重点目標】 (延べ宿泊者数の増加割合)＝(評価時点の年間延べ宿泊者数－H30の年間延べ宿泊者数)／(H30の年間延べ宿泊者数)	81000人	87000人	93000人
5	【福岡県 単独目標】柳川地域における観光消費額75億円（H30）から83億円（R6）に増加（8億円（10.6％）の増加）			
	【福岡県 単独目標】柳川地域における観光消費額（二ッ川 河川環境整備事業） (観光消費額の増加割合)＝(評価時点の観光消費額－H30の観光消費額)／(H30の観光消費額)	75億円	億円	83億円
6	【（A11-001）単独目標】都市部の1日あたりの歩行者交通量を84,000人（R3）を113,000人（R6）に増加（29,000人（34.5％）の増加）			
	【（A11-001）単独目標】 (都市部の1日あたりの歩行者交通量の増加率)＝(評価時点の歩行者交通量-R3の歩行者交通量)／(R3の歩行者交通量)	84000人	103000人	113000人

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－	避難確保計画の策定		避難行動要支援者名簿の提供	

※全体事業費や事業実施期間は、あくまで計画時点の数値である。予算確保の状況や用地買収の進捗などによって、適宜計画の見直しを行っている。

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
広域連携事業	A11-001	河川	一般	福岡県	直接	福岡県	二級	環境	那珂川 河川環境整備事業	河川環境整備L=350m	福岡市	■	■	■	■	■	1,373	7.6	－	
	A11-002	河川	一般	福岡県	直接	福岡県	一級	環境	二ツ川 河川環境整備事業	河川環境整備L=125m	柳川市	■	■	■	■	■	1,000	2.3	－	
												小計						2,373		
											合計						2,373			

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R02	R03	R04	R05	
配分額 (a)	139	150	171	297	
計画別流用増△減額 (b)	0	0	0	0	
交付額 (c=a+b)	139	150	171	297	
前年度からの繰越額 (d)	0	45	104	128	
支払済額 (e)	94	91	147	311	
翌年度繰越額 (f)	45	104	128	114	
うち未契約繰越額 (g)	24	45	34	8	
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d)) %	17.26	23.07	12.36	1.88	
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由	地元調整に時間を要したため	地元調整に時間を要したため	地元調整に時間を要したため		

事前評価チェックシート

計画の名称： 北部九州地域への来訪者の滞在促進戦略（広域的観光活性化）（重点）

事前評価	チェック欄
I. 目標の妥当性	
①基本方針・上位計画等との適合等 1) 基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性	
①基本方針・上位計画等との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性	
②目標と広域的特定活動及び拠点施設との関係 1) 広域的特定活動により、目標達成の可能性が高い。	○
I. 目標の妥当性	
②目標と広域的特定活動及び拠点施設との関係 2) 広域的特定活動の拠点としての拠点施設の位置づけが妥当である。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 3) 指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 4) 拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業の一体性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性	
④事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性	
④事業の効果 2) 他の事業との連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤計画の具体性 1) 拠点施設で広域的特定活動が実施される見込みが高い。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤計画の具体性 2) 拠点施設整備を新たに行う場合、その蓋然性が高い。	○
III. 計画の実現可能性	
⑥円滑な事業執行の環境 1) 民間事業者等の多様な主体との連携が図られている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑥円滑な事業執行の環境 2) 事業実施のための環境整備が図られている。	○